

1960年代の

麻生の

畜産

鈴木 秀雄

1966年（昭41年7月） 万福寺3丁目  
津久井道沿いのおやしる公園の所にあつた養鶏場。この頃万福寺では養鶏が盛んでした。

1966年（昭41年7月） 万福寺3丁目  
鶏舎内の鶏

1964年（昭39年4月4日） 万福寺4丁目  
農家の庭先に飼育されていた肉牛

1969年（昭44年3月19日） 黒川  
黒川の酪農家の乳牛

1968年（昭43年9月1日） 古沢  
古沢の養豚場

1968年（昭43年9月1日） 古沢  
食べて寝て

修廣寺入口 修廣寺参道入口

修廣寺惣門をバックに

写真提供 菅原陽子

# 修廣寺入口

1975年（昭和50年）秋

もうこの写真は撮ることは出来ません。  
黒川に向う道路になり、田も畑も雑木林も、  
なくなりました。

蛙のなき声がすばらしい。でも人が近づくとそのなき声はピタリと止まる。

このアングルから写真をとるのは、とてもめずらしい。

2023年（令和5年）2月4日

田んぼにも畑にもすてきな家々が建ちならびました。

# 修廣寺参道入口

1975年（昭和50年）冬

田畑や石仏にはさまれた修廣寺への参道。左側の石仏の後ろの赤松はまだ若く、右の庚申塔の後ろの桜は、つとめを終えて、もうありません。昭和40年代のこの頃は、蛙の声、蛍の光が豊かでした。

2023年（令和5年）冬

修廣寺に向う、畑や田んぼは全てなくなり新しい家がならぶ。おじぞう様の松は太くなり、桜は枯れて、もみじが植えられた。

# 修廣寺惣門をバックに

1975年（昭和50年）11月

修廣寺 26 世（当時 32 歳）の晋山の行列が、惣門を通り、本堂へ向けて進んでいます。あたりは、まだのどかな山や田園風景のままです。

2022年（令和4年）10月

修廣寺 27 世（48 歳）の晋山の行列。あたりの山や田園風景は、整った住宅地へと変貌を遂げました。

# 修廣寺仁王門前

1954年（昭和29年）8月12日

何人の子供たちが、仁王門の前を目をつぶって走りぬけたことでしょう。仁王様も高台より、柿生、新百合の移り変わりを見続けられたことでしょう。

2023年（令和5年）2月4日

今、仁王門は、参詣の方々、見学の方々、お散歩の方々を招き入れ、ときどき前を通る通勤、通学の方々を、仁王様が見守っています。

修廣寺仁王門前

修廣寺位牌堂兼衆寮

写真提供 菅原 節生

# 修廣寺位牌堂兼衆寮

1975 年（昭和 50 年）

修廣寺の旧「位牌堂兼衆寮」。大元の建物は元禄時代（17 世紀）に建立され、その後、幾度か、修復が行われてきましたが、平成 22 年に一部、元の木材を生かして建てかえられました。（衆寮とは、修行僧の修行道場のこと）

2011 年（平成 23 年）夏

寅薬師を記念して、平成 22 年に建て替えられた「位牌堂兼衆寮」も、何十年、何百年と時間を重ねるにつれ、趣が出てくることでしょう。

# 半世紀前、多摩線開通前年

井上 康輔

1973 年（昭和 48 年）上麻生 3 丁目あたり  
新百合ヶ丘ができる前年、工事中の多摩線と  
周囲の様子

# 勝坂からの眺め

市嶋 新

1981年（昭和56年）夏頃（40年前）

勝坂（現千代ヶ丘5丁目）

海拔110メートルの勝坂から、金程と平尾方面を眺めた。写真の左は千代ヶ丘4丁目で、今も何軒かの同じ住宅が確認できる。その先の金程は多摩丘陵の森が多く、里山の風景が広がっていた。

2022年（令和4年）11月 千代ヶ丘5丁目

右の崖にはマンションが建った。金程は金程小・中学校と麻生高校の3つの学校のある住宅街となった。その先の平尾も、宅地化が進んでいるのがわかる。だが勝坂が、麻生区の富士山の展望地であることに変わりはない。

# 50年前の古沢、片平

荻久保 嘉章

1971年（昭和46年）春 古沢

陽春

新緑の古沢をスケッチする父です。

1971年（昭和46年）秋 古沢

収穫の秋

日本のどこにでもあった農村風景が、ここにもありました。稲の切り株が不揃いなことから、手で刈り取った様子がうかがえます。

1974年（昭和46年）5月 片平

多摩線開業間近

新百合ヶ丘駅に向かう鉄路には架線も整備され、多摩線開業も間近となりました。周辺に建物は全く見られず、麻生川の桜の幹もこの細さです。

宮城 すみ子

## 幻の東林寺堰

東林寺堰 昭和 35 年頃 (1960 年)

下麻生耕地方面への用水は、この東林寺堰から引かれていた。堰に掛る橋は、40～50cm 巾位であったと思うが、コンクリート製で、急いで渡り、つまずいて川に落ちた子供が何人もいた。堰は昭和 43 年からの河川改修のために取り払われた。

東林寺堰あたり上麻生 6 丁目 2022. 12

堰があった河川(現麻生川)は、数m横に移り、埋め立てた場所は家屋の敷地になっている。堰の横にあった用水路の一部がそのままの位置に残っている。

# 白根耕地と呼ばれた地の 65 年間

昭和 39 年に白根耕地の真ん中に柿生陸橋が通り、その後 20 年程して麻生環境センターの建設が始まった。そして上麻生の白根耕地から田園風景は姿を消した。

## ①昭和 32 年（1957 年）頃 春

---

現在は麻生病院、柿生病院、麻生環境センター等が位置する上麻生の広い土地に、白根耕地と呼ばれた田園地帯があった。家もまばら、ガスも電気釜も無い時代に、裏山は焚き木拾いに重要な場所でもあった。

## ②昭和 41 年（1966 年）頃

---

昭和 39 年には白根耕地を二分する形で柿生陸橋が開通した。陸橋の向こう側の田んぼは、こちら側からは何も見えなくなった。

### ③昭和 53 年（1978 年）11 月

---

柿生陸橋が建設されても、暫くは白根耕地での米作りは行われていた。川の手前には昔とは違う造りの家が増えた。

### ④昭和 54 年（1979 年）12 月

---

稲作が休みの時期、向こうには鶴川の街が見え、遠くには富士山や大山が白根耕地を見下ろすかのようにきれいに見えていた。

### ⑤昭和 62 年（1987 年）9 月

---

昭和 57 年、白根耕地を柿生陸橋で二分したこちら側に、麻生病院の一部が開設され、その数年後には、向こう側に麻生環境センターの建設が始まった。

### ⑥令和 4 年（2022 年）12 月

---

65 年もの時が経ち、白根耕地は跡形も無く姿を消した。今ではあれ程たわわに実る稲を育てた「白根耕地」の名を知る人は殆どいな

い。⑤の写真と同じ位置に、環境センターの象徴のようなベージュの塔が誇らし気に建っている。